純度試験

① 比旋光度　本品約1.25ｇを0.001ｇの桁まで量り、その数値を記録し、エチレンジアミン四酢酸二ナトリウム溶液（１→100）１mLに混合し、水酸化ナトリウム溶液（１→25）7.5mLを加えて溶解し、さらにリン酸塩緩衝液（pH7.0、比旋光度測定用）を加えて25mLとし、この溶液の旋光度を測定するとき、$[\alpha]_D^{25}$＝＋21～＋27°でなければならない。

② 鉛　本品0.20ｇ（0.195～0.204ｇ）を量り、50mLの全量フラスコに入れ、硝酸（１→125）を標線まで加えて50mLとし、試料溶液とする。鉛標準原液２mLを全量ピペットを用いて量り、10mLの全量フラスコに入れ、水を標線まで加えて10mLとする。さらに、この溶液２mLを全量ピペットを用いて量り、100mLの全量フラスコに入れ、水を標線まで加えて100mLとし、0.4μg／mL鉛標準液とする。別に、本品0.20ｇ（0.195～0.204ｇ）ずつを３個量り、それぞれ50mLの全量フラスコに入れ、0.4μg／mL鉛標準液１mL、2.5mL及び５mLを各々全量ピペットを用いて量って加え、硝酸（１→125）を標線まで加えて50mLとし、標準溶液１、２及び３とする。試料溶液及び標準溶液１、２及び３につき、次の操作条件で鉛試験法（原子吸光光度法第２法）により鉛の試験を行う。ただし、「試験」の項中、「硝酸パラジウム試液」とあるのは、「強過酸化水素水」と読み替えるものとする（５μg／ｇ以下）。

操作条件

光源ランプ：鉛中空陰極ランプ
分析線波長：283.3nm
乾燥温度：140℃
灰化温度：600℃
原子化温度：2,000℃

③ ヒ素　本品1.0ｇ（0.95～1.04ｇ）を量り、３mol／Ｌ塩酸試液８mLを加え加温して溶かし、強過酸化水素水２mLを加え、沸騰するまで穏やかに加熱する。10分間加熱し、放冷した後、これを試料溶液として装置Ａを用いる方法によりヒ素の試験を行うとき、吸収液の色は、標準色より濃くてはならない。ただし、「ブロムフェノールブルー試液」とあるのは「メチルオレンジ試液」と読み替えるものとする（２μg／ｇ以下）。

乾燥減量　1.0％以下（１ｇ、6.7kPa、70℃、４時間）

強熱残分　0.5％以下（１ｇ）

定量法　本品約0.2ｇを0.01ｇの桁まで量り、その数値を記録し、共栓付きフラスコに入れ、水20mLに溶かし、ヨウ化カリウム４ｇ及び希塩酸５mLを加え、さらに0.05mol／Ｌヨウ素溶液25mLを全量ピペットで加える。密栓して氷浴中に浸し、20分間暗所に放置した後、過量のヨウ素を0.1mol／Ｌチオ硫酸ナトリウム溶液で滴定する（指示薬　デンプン試液１mL）。同様の方法で空試験を行い補正する。

0.05mol／Ｌヨウ素溶液１mL＝16.32mg$C_5H_9NO_3S$

(イ) 保存の方法の基準

気密容器に保存すること。